

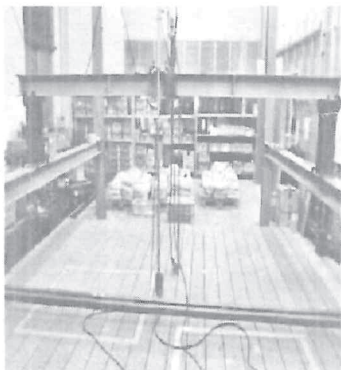
文教施設向け「文教Playタイプ」 ウッドデッキシステム

ケーワンシステム

北海道を中心に二重床の供給、施工を行い、万協フロアーの特約店でもあるケーワンシステム(札幌市、原田慶一社長)はさきぐろ、同社のK-1デッキシステムを文教施設向けにした新たなウッドデッキシステム「文教Playタイプ」を開発。万協(東京都、清水雅弘社長)と実用新案を共同出願したことを明らかにした。

実用新案も万協と共同出願

文教Playタイプ 全性を考慮し、転倒衝撃時のけがを減らすため緩衝効果値を考慮し、ZAM鋼製床下地と人工木で形成するウッドデッキに、体育館の床に求められる適度な硬さと柔らかさを取り入れたシステム。安



文教Playタイプでの弾力性試験

を提供できるようにしている。日新製鋼の特許技術で製造した、耐候性に優れたZAM鋼板に加え、万協の支持脚P

て完成させた。原田社長は「当社には、商業施設や住宅向けで使用するK-1デッキがあったが、文教施設などにも利用したいという要望があり、高性能のデッキシステムを構築を目的に文教Playタイプを完成した。耐久性が高く、性能が長続きする商品として、様々な文教施設で利用を提案していきたい」と語る。

DB型と同社の支持脚固定材のスラブロックを使用。デッキ材部分は固定条件の人工木中空タイプを使用するなど、各社の技術を集めてつくられている。同社は、実用化に向けて、硬さ試験や弾力性試験を行い、体育館JIS規格で求められる床の硬さ100GS以下を達成することも

に、JIS A-6519準拠試験をクリアしている。万協の協力により、泰成電機工業で繰り返し試験を行っ

同社は今後、テスト結果などで性能を示すことで、幼稚園や保育園、老人施設、病院などでの採用を目指していく。